

茨城豪雨災害対策 シンポジウム

豪雨は様々な災害を引き起こします。茨城県でも、近年、平成27年9月関東・東北豪雨や令和元年東日本台風などの水害を経験しました。地球温暖化によって、将来的に豪雨災害のリスクが高まることが予想されています。

そこで、主に茨城県を対象として、豪雨災害リスクがどのように変化していくと予想されているのか、激甚化する豪雨災害に対してどのような取り組みがなされているのかについて、地球科学や地域研究・行政の立場からご講演いただきます。

また、総合討論では、豪雨災害に向き合う茨城県内を中心とする様々な立場の方からコメントを頂き、豪雨災害対策の今後を考えていきます。

プログラム

司会進行：若月 泰孝

1 あいさつ

横木 裕宗（茨城大学大学院理工学研究科教授／茨城県地域気候変動適応センター長）

2 温暖化による気候ハザード予測研究の最前線

高薮 出（気象庁気象研究所主任研究官）

3 流域治水プロジェクト

櫻井 真一（国土交通省常陸河川国道事務所地域防災調整官）

4 台風19号調査団の活動をきっかけとしたその後の展開： 水戸市飯富地区および大子町の事例

伊藤 哲司（茨城大学人文社会科学部教授）

5 情報伝達・避難行動調査を含めた 豪雨災害時のソフト対策

若月 泰孝（茨城大学理工学研究科准教授）

6 総合討論



日時

2022年

3月4日（金）

13:30～15:30

会場

Zoomオンライン開催

お申し込み

事前に以下のリンク又は右記QRコードよりお願いいたします。（300名に達し次第締切）

https://zoom.us/webinar/register/WN_6J8dJzQrQPeyuhSO0kg5EA

